

	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組状況	評価	関係者評価(3月)	次年度へ向けて
I 学組 協働 運営 的な	【橋っ子の掟】 学校教育ビジョンの「本年度の重点」を理解し、「橋っ子の掟」を徹底させる指導を継続する。	【満足度指標】 児童は「橋っ子の掟」を守ることの大切さを理解し、掟に従って自分の生活を律することができている。	「橋っ子の掟」がしっかり守れている児童の割合が A 80%以上 (但しあてはまるくどちらかというあてはまる場合はB) B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	今年度の柱として設定した掟5項目を、児童の現状を点検しながら100%達成に向けて取り組んできた。 児童自己評価の結果 7月 100% (④36%, ③64%) 12月 91% (④52%, ③39%, ②9%) だんだんA評価が増えてきて意識も意欲も高まった。	A	姿勢よく授業を受けるなど、掟はとても大切だと地道にやっている。 意識するまで徹底させているかどうか、確認までしっかりとやって続けてほしい。	児童の意識が高まったが、教員アンケートでは三学期の評価が低下した。 年間を通して指導を継続し、意識なくともできるようにするまで徹底させていかなければならない。 児童会中心に学期ごとに重点を決めて呼びかけや点検をしていけばどうか、掟を守ること合わせて、掟の意味も考えさせていきたい。
	【学力向上】 わかる授業づくり、朝学習や水曜補習タイムにおける基礎的事項の習熟や活用力の学習指導に努め、基礎的基本的学力の充実、活用力の向上を図る。	【成果指標】 取組の結果、基礎学力が充実し、活用力が向上している。	国語・算数の単元テストの平均点が80点以上、 C・R.Tの国語・算数の達成率が全国平均より+5以上であった学年が A 全学年 B 5つの学年 C 4つの学年 D 3つの学年以下	授業改善や補習タイムを活用した学習指導の継続、ノート指導や「ばっちり漢字・算数週間」の取り組みと評価などを通して基礎基本、活用力の向上に取り組んできた。 判断基準に照らして達成した学年の割合 7月 単元テスト 全学年 12月 単元テスト 全学年 2月 CRT 5つの学年 C・R.Tでは1学年が基準を越えられなかった。 ステップ表や振り返りを意識させて、考えを深める児童主体の学び合いのための態・態度、話す態度の指導を続けてきた。10項目全てでできて達成となるが、区切って話すや考えを比べて聞く等があと一歩という結果であった。項目別に見るとほとんどが70%を越えている。 児童国語アンケートの結果 5月 17% D 12月 39% C 2月 41% B	B	全体によく頑張っていると思う。授業に入っていくと、調べ学習も発表も上手にできていた。 わかる授業づくりに励んでほしい。子どもの成長を引き出すように要求度を高めて学力に反映させてほしい。	学期ごとの単元テスト、漢字、算数ばっちり評価など取り組むことを今後も継続する。また、個別の指導、支援を継続し、学力を定着させていく。単元テストの平均的目標を85点以上とする。
II 確かな 学力の 育成	【学び合い、考えを深める授業づくり】 国語科「読むこと」領域において説明文及び物語教材の指導法の向上を図り、児童の主体的な学びのある学習活動を推進し、確かな学びにつなげる。	【満足度指標】 考えを深める児童主体の学び合いの工夫や、話し方・聞き方ステップに取り組む、児童が学びを深められたと感じている。	考えを深める話し方・聞き方ステップの学年目標を達成している児童の割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	児童国語アンケートの結果 5月 17% D 12月 39% C 2月 41% B	B	これらから学力向上にむけた学び合いをしっかりとがんばって進めてほしい。 忘れ物を取りに行ったり帰ったりがないよう指導して欲しい。	2月月末であと数名が達成できていないが、三月末には全員に完成度を渡せるように個別に指導する。 次年度は達成がなかった児童を早めに個別指導していく。
	【読書の質の向上】 学年「おすすめの本」の指定や、図書司書と連携したブックトークや良書の紹介などを通して、読書の質の向上を図る。	【成果指標】 学年「おすすめの本」を読むことができています。 (低20冊・中・高学年10冊)	学年「おすすめの本」を読み終えた児童の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	司書教諭、学校図書館司書、担任の連携した指導と、月ごとに読者の表彰、掲示を行うことにより意欲化を図り、全ての児童が読完了した。 読書記録による結果、読み終えた児童 7月 (4冊以上) C 75% 12月 (8冊以上) B 88% 2月 (10冊以上) A 100% 例年冬場の読書活動で多くの児童が達成している。	A	読書の取組は素晴らしい。成果が出ている。 忘れ物を取りに行ったり帰ったりがないよう指導して欲しい。	家庭学習の定着には、担任の働きかけと保護者の協力が不可欠である。来年度も学年に応じた読書の量を確保するとともに基礎基本を確実に定着していくために担任の先生方の丁寧な指導が必要である。個別支援も継続していく。
	【家庭学習の充実】 強化週間を設け、家庭学習の充実を図る。宿題の量や自主勉強の充実を促し、学習時間の量と質を充実させる。高学年は、学習内容のモデルを指導し毎日自主的学習に取り組ませる。	【成果指標】 家庭学習強化週間を設け、学年×10分以上の家庭学習と自主勉強ができている。	強化週間に学年×10分の学習時間を達成した児童の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	3年生以上の自学ノート全児童分を掲示したり、保護者への協力依頼、事後は取組結果や状況、感想のお便りなどを通して、継続的な啓発や児童への指導を行ってきた。目標を持って取り組む児童が増えてきた反面、定着しない児童が固定化している。 家庭学習強化週間の結果、達成できた児童 7月 B 83% 12月 B 80% 2月 A 94%	A	子ども中心の活動の場があるのいいこと。先生の準備ももちろんしっかりされているし、一人一人を見て指導されている。	
III 豊かな 人間性 の育成	【生徒指導の3機能を活かした学級集団づくり】 「生徒指導の3機能を生かした授業づくり」を共通実践し、Q.U.検査結果より配慮を要する児童への共通理解を図り、自他を大切に作る学級集団づくりに努める。	【満足度指標】 生徒指導3機能を意識した日々の働きかけにより、児童が学校生活に安心感や楽しさを感じている。	学校生活が楽しいと感じている児童の割合が A 90%以上 (但しあてはまるくどちらかというあてはまる場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒指導3機能を意識した授業作りについて、重点を決めて取り組んできた。またQ.U.検査の結果を生かして支援策を講じたが、まだ7人の児童が楽しさを感じられていない。 児童アンケートの結果 7月 A 92% (④71, ③21, ②5, ①3) 12月 A 94% (④60, ③34, ②3, ①3)	A	学校生活が楽しく感じている子の割合が下り気味だが、分析して楽しいの中心を充実させていってほしい。 子ども中心の活動の場があるのいいこと。先生の準備ももちろんしっかりされているし、一人一人を見て指導されている。	花丸をもらう等学級で目標を達成する喜びを感じられるよう取り組ませたり、配慮を要する児童が安心して通えるよう働きかけを行ったりすることで、学校を楽しく感じている児童が多い結果につながっていると思われる。次年度も生徒指導の3機能への共通理解を図り学級集団づくりを進めていく。
	【道徳教育の充実】 道徳の時間を要として、家庭との連携やGTの活用により道徳の心情を深め、道徳教育の充実を図る。	【努力指標】 人と地域を生かした道徳教育推進事業の成果を活かし、家庭との連携やゲストティーチャーを活用した道徳の授業により道徳の心情を深めている。	年間2回以上、保護者や地域人材を活用した道徳の授業を行った学年が A 全学年 B 5つの学年 C 4つの学年 D 3つの学年以下	家庭との連携やゲストティーチャーを活用した道徳の授業を進め、道徳の心情を育ててきた。 教職員自己評価の結果 7月 (1回以上) D 3学年 12月 (1回以上) B 5学年 2月 (2回以上) A 6学年	A	学校生活が楽しく感じられず、相談する相手もいないと思えるよう、個々を見ていってほしい。	全学年がGTを招いての道徳の授業を年2回行い、地域と連携を深めて子どもたちの道徳の心情を育ててきた。GTとの連携が必須だが、実践記録を残して継続していきたい。
	【児童の自主性・主体性の育成】 よりよい学校・学級づくりにより、児童会や委員会、学級活動会、児童会や委員会、学級活動会、学校行事等に自主性・主体性をもって取り組める児童の育成に努める。	【満足度指標】 児童会、委員会、学級活動等において、児童はよりよい学校・学級づくりに進んで取り組めたと感じている。	よりよい校風づくりのために進んで取り組めたと感じている児童の割合が A 90%以上 (但しあてはまるくどちらかというあてはまる場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童会、委員会、学級活動、学校行事等を通して、目標をもたせ、活動の振り返りにより、さらによりよい学校・学級づくりに取り組めるよう働きかけを継続してきた。 児童アンケートの結果 7月 A 90% (④56, ③34, ②9, ①2) 12月 B 89% (④48, ③41, ②10, ①1)	B	6年生を送る会でも子どもたち一人一人ががんばっている。児童会の掟や体育委員会の掟やチャレなど、子どもが活躍しているのがよい。	ほとんど児童が学校行事や児童会・委員会活動、学級活動に積極的に取り組み、自分たちの手でよりよい学校にしようという意識も高まった。一人一人が活躍できる場を作ることでさらに自主性や主体性を高めていきたい。
IV 健やかな 体の育成	【体力の向上】 体育の授業や体力作り1校1プラン、スポチャレ等の取組を通して、体力の向上を図る。	【成果指標】 児童はスポチャレを中心に運動に積極的に取り組んでいる。	スポチャレを中心に運動に積極的に取り組んだ児童の割合が A 90%以上 (但しあてはまるくどちらかというあてはまる場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	体力テストの結果を受けて、投力の向上に向けてスポチャレやボール投げを取り組んだ。体育委員会主催で、スポチャレ大会を実施するなどして目標をもたせ、意欲的に取り組ませることができた。秋のミニ体力テストでは各学年とも投力が向上した。 児童アンケートの結果 7月 A 91% (④56, ③35, ②7, ①2) 12月 A 95% (④62, ③33, ②5)	A	姿勢と合わせて、鉛筆の持ち方も学力に関わってくるので、家庭と連携して正しくさせていってほしい。	体育委員会の積極的な取組もあり、どの学年も意欲を持ってスポチャレに取り組んだり、体力や技能の向上に努めることが出来た。今年度の取組も継続し、楽しく運動に親しむことさらに体力の向上を図ってほしい。
	【安全な生活】 学校安全計画にしたがって、安全教育・防災教育を推進し、児童の危機回避能力を高める。	【成果指標】 児童に対する「実践的防災教育総合支援事業」を計画通り実施し、危機回避能力を高めることができた。	危機回避能力が高まったと感じている児童の割合が A 80%以上 (但しあてはまるくどちらかというあてはまる場合はB) B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	実践的防災教育総合支援事業の指定校として安全意識の向上に取り組む、避難訓練での事前事後の学習を通して児童の安全な避難行動への実践力を身につけてきた。2月には、本校初めの児童引き渡し訓練も実施した。 児童アンケートの結果 7月 A 95% (④66, ③29, ②3, ①2) 12月 A 96% (④74, ③22, ②3, ①1)	A	防災(滅災)教育は児童の間でも少しずつ定着してきたようだが、校内でのケガを減らすためにも、日常の安全意識をもっと高めていかなければならない。廊下や体育館での行動を徹底する取組を考えた。	
V 家庭・地域との 連携	【たちはな夢プランの推進】 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる特別授業を企画し、生き方にふれることで夢や目標を育んでいく。	【満足度指標】 たちはな夢プランの特別授業を通して児童が学びを深め夢や目標をもっている。	特別授業の学習や活動を通して楽しめた児童の割合が A 90%以上 (但しあてはまるくどちらかというあてはまる場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	各学年のふるさと学習や、生き方学習、ものづくりマイスターの事前講座や森太鼓の演奏会等で、夢や目標に向かっている多くの人と出会う機会を設けた。児童は夢や目標をもって生きることの大切さや素晴らしいことを学んできた。 特別事業実施時のふりかえり作文の記述 児童アンケートの結果 7月 A 96% (④74, ③22, ②3, ①1) 12月 A 98% (④75, ③23, ②1, ①1) 2月 A 98% (④86, ③12, ②1, ①1)	A	低学年は大きな声であいさつをしているが、大きくなるにつれて声が小さくなるように、強化週間をカナル音階的に入れていくとよい。	年間を通して、地域の方やマイスターの方に来校して頂き、生き方に触れる機会を設けることができた。今後色々な職業の方とふれ合えるように計画、企画していく。
	【社会性の育成】 社会性を身につけた児童を地域ぐるみで育成するため、あいさつを重点に、家庭・地域との連携を図り、身近な人に進んで明るいあいさつができる児童を育てる。	【満足度指標】 家庭・地域や学校で、児童は進んで明るいあいさつができている。	進んで明るいあいさつができた児童、保護者、教職員が A 90%以上 (但しあてはまるくどちらかというあてはまる場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	毎朝多くの児童はあいさつをしているが、進んで明るく進める児童が増えるよう児童会の力を入れて取組を進めてきた。 児童アンケートの結果 7月 A 95% (④70, ③25, ②4, ①1) 12月 A 92% (④69, ③23, ②8) 保護者アンケートの結果 12月 B 86% (④39, ③51, ②13, ①1) 教職員アンケートの結果 (年間3回調査の平均値) C 79% (④10, ③69, ②21)	B	あいさつは社会性の基本でもあるので、継続した指導が必要である。	児童は自分たちのあいさつに高い評価をつけており、保護者も満足しているが、教職員も満足していても誰にでも、という指導を進める中で明るい目を向けていく。今後明るく元気な、爽やかな、意識させて指導を継続していく。